

小宮小R5後期 教職員による学校評価まとめ

【1】実施時期 令和5年12月1日～12月22日

【2】回答率 教職員数 27 回収数 24 回答率 88.9%

【3】各項目 結果のまとめ

A …あてはまる B …だいたいあてはまる C …あまりあてはまらない D …あてはまらない E …わからない

No	評価項目	AB評価 %	CD評価 %
1	本校は、学校・学年・学級の目標や、重点テーマ目標「伝える つなげる ゴースマイル」を子どもたちに伝えている。	100	0
2	本校は目指す学校「子ども主体学校」の実現に向けて重点コンセプト「自立・主体・自主」(KDD)に取り組んでいる。	100	0
3	本校が石川中学校、宇津木台小学校と合同で行う取組は、教育的な効果をあげている。	58.3	25
4	本校は、子どもたちが安心・安全に過ごせるように、避難訓練などの安全管理に取り組んでいる。	95.8	4.2
5	自分が担当する学級、教科および職務において、教育活動全体(「特別な教科 道徳」を含む)を通して、子どもたちが自分の大切さ、他の人の大切さを認め、行動することができるように指導している。	100	0
6	本校はいじめの未然防止、早期発見、早期対応等、いじめを許さない学校づくりに組織的に取り組んでいる。	95.8	4.2
7	自分の担当する学級および教科において、子どもたちが授業や学校行事に意欲的に取り組めるように支援している。	91.6	8.4
8	自分が担当する授業では、説明、板書、話し合い活動、ICT機器(1人1台の学習用端末を含む)の活用などの工夫に取り組んでいる。	95.8	4.2
9	自分が担当する教科において、子どもの学習活動に対する評価を適切・公平に行っている。	95.8	4.2
10	本校は、子どもがよりよい生活を送ることができるようにするため、学校の生活指導の目標やきまりを守るように取り組んでいる。	91.7	8.3
11	自分の担当する学級、教科および職務において、「はちおうじっ子 キャリア・パスポート」等を用いて、子どもの生き方や将来について指導している。	83.4	8.4
12	本校は、授業で使う教室や廊下、オープンスペース、体育館、校庭等を児童が安全で快適に学習ができるように整備している。	91.8	8.4
13	本校は保護者に対して適切に情報を提供している。(学校便り、学年便り、ホームページ等)	100	0
14	本校は、特別支援教育に適切に取り組んでいる。	100	0

	評価項目に対する意見
	令和5年度の小宮小学校を振り返り、成果としてあげられること、次年度以降にも継続していきたいことを入力してください。
	・KDDの意識は今後も続けていったほうがいい。かなり浸透していった小宮小のいい伝統になっていると思います。

- ・委員会やクラブにおけるクロームブックの活用
 - ・「伝える」自主的な集会での発表
 - ・委員会活動における異学年交流（たてわり）
 - ・基礎学力の押さえ方（研究推進）
 - ・年間行事予定の見やすさ
 - ・文化祭では、学年によっては2回目の音楽会や学芸会になったが、どの学年も以前より成長が見られたと思う。
 - ・普段の生活や行事等を通じて子どもたちが成長したと感じられました。来年度も子どもたちの実態や気持ちをよく理解して指導支援していきたいと思います。
 - ・みんなが丸となって学校を盛り上げているし、問題が起きてもみんなで解決できていると思う。
 - ・ここ数年校長先生が中心となって取り組んできた「KDD活動」を次年度以降も継続して取り組んでいきたい。「子どもだけでできる」はまさに現代の教育目標の主体性そのものであると考える。子どもだけでできる力を児童に身に付けさせ、その環境を教員が整え支援する、このような活動を大切に続けていきたいと思う。
 - ・「伝える つなげる ゴースマイル」について、意欲的な児童にとっては活躍できる場面が多くみられてとても良いと思ってる。（伝える集会、委員会活動、クラブ活動）
 - ・高学年の児童がたてわりを意識し、下学年に対してできることをいろいろ考え、実際に動き始めているのがよいと思います。継続し、盛り上げていけるとよいと思います。
 - ・KDDは子供たちに標語として根付いているので、今後も続けていけると良い。
 - ・KDD活動の定着 児童がKDDの難しさと重要性を感じられるようになってきた。
- 行事への取組（めあてや伝えたいことを明確に指導をすすめている）
そうじなど仕方など委員会を交えて、子供たちで高め合えるようになっている。
- 15
- ・朝の会や朝会、集会が時間通りに始められるところ。
 - ・子どもたちの間に「KDD」の言葉が浸透し、「子供だけで考えて頑張ってみよう！」という思いをもって生活する子どもが増えてきたように思います。
 - ・学年だけでなく学校全体で児童たちの指導に取り組んでいること
 - ・全校朝会の児童からの自発的な発表（発表方法、内容など）が回数を重ねるごとにレベルが上がってきていると感じます。
 - ・行事を通して子ども達が成長することができたことがよかったです。
 - ・KDDを意識させることで、自分たちが次にやることを確認する習慣が付き、学習の見通しを持つことができる児童が増えた。次年度以降も継続していきたい
 - ・KDDの取り組みは、子供たちにも浸透しており、低学年の子供たちもKDDで動こうと頑張っています。引き続き、取り組んでいきたい。
 - ・KDDは小宮の伝統にしていくべき。
 - ・ICTの活用、それに対してのプログラミングコンテストの入賞者の多さ、機器の利活用の多さ
 - ・伝えたい集会が充実していて、児童にとってとてもいい取り組みになっていると感じているため、来年度も継続して頂きたいです。
 - ・情報共有することができていることです。都度、学年で話し合い、管理職に報告・相談し、成果を上げています。
 - ・子ども達にKDDが根付き、「自分たちで取り組もう」という意識が前年度よりも高くなっているように感じられた。
 - ・行事や委員会・朝会等では、児童の声がとても生かされており、今後も継続してほしいです。自分たちで考え取り組んでいるからこそ、行事を終える度に児童の成長を肌で感じます。
 - ・改善会議や委員会の子供たちの姿が前向きで全校のお手本になっている。
 - ・伝える集会での子供たちの発表の内容が、学習を生かしたものなど、質が高い。
 - ・行事での各学年の発表が、学年の子供たちの個性が生かされ、力を合わせて創り上げていて意義深い。

令和5年度の小宮小学校の教育活動を振り返り、課題と感じたことを入力してください。

・知的好奇心や、粘り強く努力する力が、十分でない子どもたちに対して、学習の基礎となる力を育てていくことがなかなか難しいと感じる。

・あいさつ 基礎学力の向上

・児童たちは、音楽に親しみをもち音を楽しんで学ぶ様子が進級しても感じることができている。音楽を楽しむことはできているので今後はもっと音楽的に質を高め求めているのかもしれない。楽しむ中でそれが上手に求められると更に成長につながります。

・生活指導。朝会などの話の聞き方や朝の昇降口での待ち方、休み時間の過ごし方などがひどくなってきた感じがします。全体で指導を見直したほうがいい感じがします。

・基本的な生活習慣の定着、学校生活のルールを守ることの定着、基礎学力の定着について、今後も引き続き粘り強い指導と、保護者の協力が必要であると考えます。

・集会での話の聞き方やつぶやき方や文化祭での鑑賞態度の指導

授業内容をじっくりと指導できる時間の確保

行事内容の精選（練習時間内にできるような工夫と保護者への説明）

・子どもの聞く姿勢です。指導しても難しいこともあります。学校全体で改善を目指していくことだと思います。

・繰り返し指導し続けても、いけないこと（例えば、物を投げる、よくない言葉をぶつける...など）をしてしまう児童がいます。「もし相手にけがをさせたら？」「もし傷つけてしまったら？」「どうして自分はしてしまったのか？」などを考えさせ、「では、どうしたらよかったのか？」と一緒に考え指導しますが、その後の行動になかなか結びつかず、難しさを感じることがあります。

・友達とのかかわりの中で、言葉遣いや遊び方など気になる点が見られた。

・KDDを達成するためには、児童の自主性を引き出さなければならないが、そのために準備や活動の時間がなかなか取れなかった。

・物事の準備（KDDをさらに高めるため）、委員会等の準備などが全体的に甘い気がしました。子供が見通しを持てる工夫が必要だと思います。タブレット活用だけでは、まだ不十分だと感じました。

・家庭科クラブのKDDが難しかった。

・クラブ活動の指導。どこまで教師が助言・指導に入るべきか、判断が難しい。

・教員間の指導技術伝達の場合やコミュニケーションがまだ不足していると感じる。限られた時間の中ではあるがOJTの時間を増やしたり夕会の中でブロック単位で集まり学習指導における好事例を短い時間の中で紹介し合うなど工夫次第ではできると感じます。

教員間の指導技術伝達の場合やコミュニケーション場を増やしより魅力のある小宮小学校を目指していきたいと思う。

・教室整備が必要と感じました。（避難訓練・不審者対応時、廊下側から室内が見えないようにカーテンのようなものを設置する等）

・避難訓練が予告が多いので、減らした方がいいのではないかと思います。

・休み時間に教員が外にいないことが多いので、安全面において外に出るといいですが、その余裕がなかなかないことも現実です。

・全校朝会や全体で集まったときの、子ども達の話の聞き方があまりよくないと感じます。全校朝会の時間を短くした方が子ども達も集中してきけるのではないかと思います。

・異学年交流（たてわり）のつながりが薄い。下学年への思いやりや優しさを育てられていないことが課題です。

・行事が多いところで、（特に6年生が）休み時間がつぶれて、息抜き出来ていないのか、疲れている様子が見られた。児童にとって達成感が得られるきっかけにはなると思うが、デメリットもあると思う。

・私自身の反省でもありますが、他の行事と被ってしまう等の理由で急遽内容・日程の変更が多かったように思います。先を読んで確実に計画・実施をし余裕を持っていきたいです。

・小中一貫教育